

心豊かな「すてきさん」づくり ～ えがお・げんき・あいさつ～
かながえ、やってみる子 いたわり、助け合う子 せいいっぱいがんばる子 いきいきと元気な子



見頃を迎えた幼稚園のあじさい

開成町立開成幼稚園

たいよう通信

第3号

発行日：令和6年6月11日（火）

発行者：園長 杉山 孝史

「あじさいまつり」で歌おう

6月になりました。関東地方の今年の梅雨入りは、平年に比べて遅れているようです。個人的には外での活動時間が多くとれるので、ありがたいのですが、ところで、梅雨の風物詩の一つにあじさいの花がありますが、あじさいは開成町の花です。6月8日（土）から16日（日）までの9日間、恒例の「あじさいまつり」が開催されています。広々とした水田地帯を中心におよそ5,000本のあじさいが植えられており、日を追うごとに色合いを増しています。6月13日（木）、年長の子どもたちがお弁当を持ってあじさい公園へ出かけていき、地域や観光に来られた方々に歌を披露します。お時間がありましたらぜひ会場へお越しください。

昨年5月、新型コロナが感染症法の5類に移って以降、開成幼稚園では園外へ出かけたり地域の方々やボランティアさんを幼稚園へ招いたりしてきています。地域の自然や多くの人とのふれ合いは、子どもたちに社会性や公共心、地域への愛着などを育む絶好の機会となっています。今後、ますますこのような機会を増やしていきたいと考えています。

年少お話し会 生活リズムを整える

5月29日（水）、年少の保護者の皆さまにお集まりいただき、「年少お話し会」をゆうぎ室で開催しました。開成町こども課の保健師さんから、朝ごはんを食べる意義について話していただきました。朝ごはんの効果としては、一日のエネルギー補給、体内時計を整える、排便の習慣化などがあり、子どもたちの健やかな成長にとって極めて大切な働きをしていることが分かりました。朝ごはんをしっかり食べて元気に遊び、早寝をしてすっきりと目覚めるといった生活リズムの好循環をつくっていきたいものです。ご参加いただきありがとうございました。



年中 親子で遊ぼうDAY

5月24日（金）、年中・親子で遊ぼうDAYをどんぐり会館で行いました。貨物列車ゲーム、新聞紙を身体に貼り付けながら走るゲーム、新聞紙の上に乗せた風船を親子で運ぶゲーム（写真）など、どんぐり会館が笑いとお声に包まれました。参加されたご家族の方から、「とても楽しい時間が過ごせた」という感想をたくさんいただきました。新聞紙は安全で費用もかからず、子どもたちの想像力を刺激するのに持って来いの素材です。さらに、親子や友達どうしのコミュニケーションや結びつきを強くすることもできます。親子や家族、友達どうして身近



な物を使った遊びをいろいろ工夫して楽しんでみてはいかがでしょうか。

～ 保護者アンケートから ～

<Aさん>

普段はやったことのないゲームに懸命に取り組んだり、親から離れて歌を披露してくれたり、年少の頃には見られなかった子どもたちの姿が見られて成長を感じられて嬉しかったです。本人は、新聞紙をお腹にくっつけて親子で走るゲームが1番おもしろかったです。楽しい会をありがとうございました。

<Bさん>

これまでマスクで表情が見えにくく、何となく親同士もコミュニケーションの取りにくい日々でしたが、ゲームを通して子どもと一緒にいつの間にか親たちも笑顔になって、少し前より打ち解けられた気がしました。子どもも、私が来たことを嬉しそうにしてはりきっていて、家とは違った一面を見られてよい時間を過ごせました。ありがとうございました。

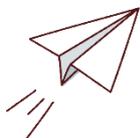
年長誕生会 マジックショー

5月27日（月）、年長の子どもたちがマジックショーを楽しみました。この日は5月生まれの



子の誕生会でしたが、科学マジックを得意とする久保田さんをお招きし、目には見えない空気を使った数々のマジックを見せていただきました。

膨らませた風船を数個集め、その上に人が乗ってもビクともしないマジック（写真）、2つの紙コップの底と底を貼り合わせて前方に投げ出すとくるくる回転しながら飛んでいくマジックなど、すべて興味津々でした。「空気をを使うといろんな遊びができそうだね」久保田さんの投げかけを受けて、さっそく次の日、紙コップ飛ばしに挑戦している子を見かけました。



年長の子どもたちは、久保田さんのマジックを通して、科学する楽しさや面白さ、不思議さを実感したことでしょ

幼稚園づくりのサポーター

5月21日（火）、開成幼稚園学校運営協議会（第1回）を開催しました。この学校運営協議会という制度は、学校（幼稚園）と保護者、地域住民が一体となって学校（幼稚園）運営の改善や子どもたちの健全育成に取り組む組織です。いわば、幼稚園のサポーターとしての役割りを担っていただくものです。この日の会議では「PTA 役員を選出に関すること」「園帽子や通園リュック等の変更にすること」などが話題になりました。本園の良さはさらに発展させ、課題については改善に向け努力してまいりたいと思います。

委員の皆さま、一年間どうぞよろしくお願ひします。

令和6年度協議会委員（全8名）

- 内藤真広さん（令和6年度 PTA 会長）
- 原口佳奈さん（令和5年度 PTA 本部役員）
- 石飛信彦さん（地域住民・学識経験者）
- 石崎雅美さん（地域住民・学識経験者）
- 大澤隼人さん（行政・町教育委員会職員）
- 小林雅子（教頭）・鈴木悠子（園務主任）
- 杉山孝史（園長）

※協議会の会長に内藤さん、副会長に石飛さんが委員の互選により就任されました。



ひとつの言葉

▼私たちは、主に言葉を通して

他者とのコミュニケーションをとります。他者からの温かいひと言に励まされ救われることもあれば、心ないひと言に傷ついたり悩んだりすることもあります。▼先日、子どもに寄り添う保育を実践する「りんこの木」代表・柴田愛子先生の話を聴く機会がありました。子どもが、今思っているであろう事を言葉に出してみるのが大事であると先生は強調されました。「楽しいね」「悲しいね」「怒ってるんだよね」など、その子の気持ちを代弁することが心に寄り添うことになるそうです。大人は原因を探り、問題を即座に解決しようと思いますが、子どもは必ずしもそれを望んでいません。ほとんどの場合、共感する言葉かけにより子どもは落ち着きを取り戻すのだそうです。▼感慨深い詩があります。「ひとつの言葉でけんかしてひとつの言葉で仲なおり ひとつの言葉で頭が下がり ひとつの言葉で心が痛む ひとつの言葉で楽しく笑い ひとつの言葉で泣かされる ひとつの言葉はそれぞれに ひとつの心を持っているきれいな言葉はきれいな心 やさしい言葉はやさしい心 ひとつの言葉を大切に ひとつの言葉を美しく」▼言葉（ことば）をこ存じでしょうか。言葉に宿ると信じられている力のこと、発した言葉ごおりの結果になるというものです。言葉は、使い方によって聞く人を幸せな気持ちにしたり、悲しませたりします。言葉は、人の心を動かす力を持っています。▼日本語の乱れが、話題になります。時代とともに言葉が変化するのは至極当たり前のことです。ただ、どんなに世の中が変わることも、大切にしたい言葉はあります。相手の立場を理解し、相手の気持ちに寄り添った言葉かけのできる子に育ってほしいなと思っています。

